

国立長野高専(環境都市工学科)学生が 東御市指定文化財 大石沢眼鏡橋を測量します！

主催：国立長野高専(環境都市工学科)

一般社団法人 長野県測量設計業協会

企画 土木・環境しなの技術支援センター

協力 東御市、東御市教育委員会、上田建設事務所

国立長野高専環境都市工学科、一般社団法人 長野県測量設計業協会、土木・環境しなの技術支援センターは、土木工学を学ぶ学生たちが、測量や調査などの専門技術を学び、将来の職業を考える機会として、東御市指定文化財 大石沢眼鏡橋を測量、調査する授業を共同で行います。

日時	平成27年11月5日(木)	9時30分～15時30分	(小雨決行)
場所	東御市滋野 大石沢眼鏡橋(駅前から南300m) 滋野コミュニティセンター 及び 眼鏡橋現地 (旧北国街道)		
内容	道路及び眼鏡橋の測量、石積みなど周辺調査		
当日の予定	・10時 開校式、 講義「眼鏡橋の歴史」 ・11時頃から 調査測量作業開始 ・15時から成果発表		

講義はどなたでも ご聴講いただけます

【大石沢眼鏡橋】江戸時代からの北国街道田中宿と小諸宿の間を流れる大石沢川では、谷を下って急流を渡り、谷を上るといふ、人馬でさえ大変な苦労があった。この沢に架けられた石橋は、川の部分をアーチ型に積み上げ、上部は東西の集落と平坦に通行できる高さまで石積みし、高欄まで付いた本格的な眼鏡橋だった。明治13年3月始まった工事は翌年2月に石積みが崩れる事態となった。架橋に取り組んだ地元の武田久乃助は諦めず、私財をなげうって多額の寄付をし、橋を完成。それでも工事費は不足したため、通行の際に橋銭を徴収したとされる。坑門は切石の布積みで、アーチ頂部に要石がみられる。その上には扁額があるが、文字はない。平成10年2月、市の有形文化財に指定された。当時の橋の形を残す、貴重な土木遺産である。



【測量授業】長野高専では毎年行う現場見学に併せ 実際の土木建造物を自分たちで調査、測量し、その規格などを調べ、まとめることを通じて、測量技術、土木建造物の調査の重要性や歴史などを学ぶ授業をめざしています。また、今回の取り組みは、県内の測量設計会社の技術者の技術指導と、県内の研究者、技術者の自主組織である土木・環境しなの技術支援センターの支援で行われます。

【問い合わせ】◇国立長野高専環境都市工学科：長野市大字徳間716 担当教授：古本吉倫

◇一般社団法人 長野県測量設計業協会：長野市南長野県町484-1

担当：銭坂 治 電話：026-233-5078 E-mail: chosokyo@seagreen.ocn.ne.jp

◇土木・環境しなの技術支援センター(理事長 小西純一信大名誉教授)

【事務局】長野市篠ノ井布施五明341-7 担当：山浦 直人